



## 欧州現代事情Ⅱ

# CURIOUS U

2019年度春学期教養科目（1年生）

好きな専門分野を1科目選択して10日間学んでいく  
学術分野特化型（午前2コマ&午後4コマ）

該当科目（16科目 文理混合-近年話題になっているトピックを開講している）授業も講義形式ではない。

住居のデフォルトはテント（ヨーロッパでは珍しい）、プラスアルファ支払えばキャビン（250ユーロ）や寮（300ユーロ）も選択可能。

# 2019年度春学期 全学教養科目 欧州現代事情Ⅱ・Curious U

オランダのトゥエンテ大学で実施されるサマープログラム (CuriousU) に参加し、興味がある専門分野科目を英語で履修します。また、アムステルダムに2日間滞在します。

## 説明会

4/11, 18, 25, 5/9 (木) 12:15-12:45 国際棟207

CuriousU単独説明会 4/22 (月) 12:15-12:45 国際棟207

## 5つのポイント

- ①「全学教養科目」の単位認定あり  
事前授業+現地研修+事後授業の3部構成
- ②好きな「専門分野科目を英語受講」  
豊富な科目数の中から、自分の好きな科目を1科目選択して、午前中2コマ、午後2コマ授業を受けます。
- ③「勉強とフェス」のコンビネーション  
夕食後は、毎日イベントがあり、スポーツ、ダンス、ゲーム大会など、授業以外の学生とも交流できます
- ④日本人少なく「欧州全土から約200名参加」  
比較的、日本人大学生の参加が少なく、反対にヨーロッパ全土から多くの大学生が参加します。
- ⑤「テント滞在」(無料)で費用を軽減  
滞在中の住居は「テント」、「キャビン」、「寮」、「ホテル」の選択肢があります。ほとんどの学生が「テント」に滞在。

研修企画実施: 海外留学室、University of Twente (CuriousU)

## 専門授業のテーマ(例)

- ・ English for Academic Purposes
- ・ Robot Interaction ・ Smart Cities
- ・ Governance and Ethics of Technologies,
- ・ BLockChain Tech ・ Risk Management
- ・ Finance bootcamp for Smart Businesses 他

## 履修願提出方法

説明会に参加後、担当教員との個人面談を経てウェブ上から履修希望を提出

締 切 | 2019年5月16日(木)正午

申込方法 | 海外留学室ウェブサイトから

問合せ先 | 海外留学室 (国際教育交流センター)

✉ abroad@iee.nagoya-u.ac.jp

☎ 052-789-4594

## 授業・海外研修予定

海外研修: 2019年8月8日(木) - 21日(水)

対 象: 全学部生 (最小履行人数: 5名)

費 用: 約28万円\*

\*海外旅行保険、個人的交際費等は、上記に含まれません。また、外貨為替レートにより金額が若干変動する可能性があります。

奨学金: ①JASSO奨学金・8万円

②名大奨励金・10万円(滞航費支援)  
(上記奨学金は支給条件あり)

名大での事前・事後授業(国際棟教室):

【事前授業】

①6/5(水) ②7/3(水) ③7/24(水) 5-6限目

【事後授業】

④8/29(木) 3-4限目

↓ CuriousU概要 ↓



↓ 申込サイト ↓





# CURIOSU SUMMER SCHOOL

## CURIOSU 2019: MAIN SCHEDULE

	8:00	8:30	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	19:30	20:00	20:30	21:00	21:30														
SUN 11-08				Arrival day, check in																	Meet-up and pizza																					
													Jogging & sightseeing campus																													
MON 12-08	Breakfast & keynote: Miriam Hoban & Mélanie Stoopdorp-Fortuin			Course						Lunch: Taste the Netherlands & Speed Reading		Course					Free		Dinner							Escape Rooms																
TU 13-08	Breakfast & keynote: Peter-Paul Verbeek			Course						Lunch: Curious about your future? & UT students wonders		Course					Free		Dinner							Game night																
WED 14-08	Breakfast & keynote: Sofie Berghuis			Course						Lunch: C-the future of research & Dance Workshop		Course					Free		Dinner BBQ							Beach Volleyball Tournament																
TH 15-08	Breakfast & keynote: Geke Luidsen			Course						Lunch: Playland		Course					Free		Dinner City Centre							City Centre Summer Sounds																
FRI 16-08	Breakfast & keynote: Elizabeth Mix			Course						Lunch: ExploreU & VR Parachuting		Course					Free		Dinner							Music Night																
SAT 17-08	Breakfast			Free day																																						Quiz Night
SUN 18-08	Breakfast & keynote: Peter Joosten			Course						Lunch: Dutch Olympic games & Graffiti Workshop		Course					Free		Dinner							Movie night																
MON 19-08	Breakfast & keynote: Neil Sheridan			Course						Lunch: Chershing Memores & Pinatas		Course					Free		Dinner							Farewell Ceremony																
TU 20-08	Breakfast	Goodbye/ Participants Departure																																								

WE'LL BE OFFERING GREAT COURSES IN OUR HOTTEST RESEARCH FIELDS



- *Blockchain Tech*
- *Design the Future*
- *English for Academic Purposes*
- *EntrepreneurialU*
- *E-Sports*
- *Evaluating Future Health Technologies*
- *Finance bootcamp for Smart Businesses*
- *GIS & Earth Observation: The Essential Perspective for Projects*
- *Health and Happiness*
- *Leaders of Innovation and Impact*
- *Mix & Match*
- *Risk Management*
- *Robot Interaction Design Experience*
- *Serious Gaming*
- *Smart Cities*
- *Technology & Society*
- *Water*

## 短期研修報告書

記入 | 2019年 9月

所属&学年 | 経済学部 1年生

留学先大学 (国名)	オランダ・トウエンテ大学
短期研修のプログラム名	欧州現代事情Ⅱ・CuriousU
留学した期間	2019年8月8日-21日

### 1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

CuriousU を選んだ大きな理由は、研修のうち10日間はトウエンテ大学のサマースクールに参加し、世界の学生と講義やディスカッションをともにすることができる点です。私はほかのプログラムより海外の人々特に同世代の人との関わりが多いと感じました。さらに、ユトレヒト、アムステルダムでの研修を通してヨーロッパの文化や歴史を学ぶことができることも貴重な体験になると考えました。CuriousU では自分の興味のあるコースを選んで受講することができ、その中にあった risk management というコースが経済学部の勉強に関連しており、また、将来にも役立つと考えたため、この risk management を学ぶことができることも CuriousU を履修した主な理由の一つでもあります。事前授業では異文化、異言語の人たちとどのようにコミュニケーションをとるべきなのか、そのとき自分の心の中にどのような感情が生まれるのかを体験したり、ダイヤモンドモデルを使ってエレベータートークで自己紹介や自分の履修科目について発表したりしました。事前授業で行なったこれらの活動が本番のいい練習として非常に役立つことは、CuriousU に実際に参加してから外国人と話す中で切に感じました。自主的な学習としては、英会話の対策として、家にあった英会話の使えるフレーズ集を読んだり、日常的に思ったことを英語で表現してみたりしました。また、risk management の予習として、risk management に関する書籍を2冊ほど読みました。講義では、この書籍に載っていないことがたくさん扱われましたが、少しでも知っているキーワードや事柄があることで、講義での理解度も上がったと思いました。

### 2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

1日目の研修ではユトレヒト、ザーンセスカンスの観光をしました。二日目のアムステルダム自由行動では、まず、RIJKSMUSEUM に行き、レンブラントやフェルメールの絵画を鑑賞した後、運河クルーズをしました。運河クルーズではアムステルダムが水運で発達した歴史を垣間見ることができ、おすすめです。眠気を催します。CuriousU では私は risk management コースを履修しました。このコースはほかのコースと比べて少し座学の内容が多いように感じました。午前、午後ともに3時間ずつの授業で先生によって毎講義1, 2回のコーヒブレークをとってくれます。この講義を履修して最もよいと思った点は、身の回りにひそむ様々なリスクについて、いろいろな角度から考察できる点です。インフラ関係では

オランダの鉄道会社の NS についてのリスクから、サイバーセキュリティまで、たくさんのリスク同定方法、対策を考えることができます。座学の講義自体も日本での大学の授業とは異なり少人数で、先生と生徒間のコミュニケーションが置くアクティブな授業で魅力的です。この質問なども飛び交う寮が日本とは桁違いで、とくにドイツの方は流ちょうに質問をしていたのが印象的でした。私も質問をしましたが、たとえ的を射ない質問であってもだれも馬鹿にすることや冷ややかな目線が飛んでくることもありませんのでそこはいいことだと思いました。その上エンスヘーデの city center でのフィールドワークやフィッシングメールを見分ける実習、さらには wifi をハッキングするワークショップなど、体験型の授業はとて楽しく学習をすることができます。また、CuriousU では、授業だけでなく、昼、夜のイベントが非常に充実しています。例えば、バンドのライブや、映画ナイト、脱出ゲームやビーチバレートーナメントなどです。これらの中にはその日の昼などに予約が必要なものもありますので、予約を忘れずにたくさんのイベントに参加すると様々な人と交流でき、思い出も増えてとても楽しかったです。

### 3. 生活（住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど）

アムステルダムで滞在したホテルは、非常に快適でした。お風呂も綺麗で水圧も十分で、歯磨き以外のアメニティは備えられていました。少し埃が舞っていて乾燥していたので、敏感な人はマスクを持って行ったほうがよいです。ドライヤーはホテルにはありますが、その後の CuriousU では必要なので変圧不要の海外対応ドライヤーを買うのがおすすめです。食事については、外食で 12 ユーロ以上出せばなかなかおいしい食事が食べられます。スーパーではサラダや寿司が売っていますがまずくはなかったです。果物はとてもおいしかった印象です。ちなみに私は、友達と毎日のようにマスカットを買って食べていました。私は滞在費として 400 ユーロを現金のみで持って行きました。これは小さな失敗でした。アムステルダムの市街を走るトラムの切符を買うのはカードのみで、その他にもカードしか使えない時はままありました。そのため、現金だけでなくカードも持って行くことを強くおすすめします。現金だけで持って行くともだちに大変お世話になることになるので注意してください。金額的には 400 ユーロでぎりぎりでした。CuriousU 期間中には予定外のことがたくさんありました。まず、特に朝晩はとても寒いことです。日本の夏より少し涼しい快適な夏ぐらいに思っで行くと大間違いで、昼は少し暑いぐらいですが寝ている間は非常に寒いです。（※涼しいではありません。）羽織れるものやパーカーを持って行くのが得策だと思います。これに関連して、トゥエンテ大学での宿泊場所について、私の泊まったテントには一長一短があります。まず短所について、一つ目は、天候の悪影響を受けるということです。先述したように、気温が低いため、寝袋一枚ではとても寒いです。服装の工夫はもちろん、スタッフや人に言えば、二枚目の寝袋を貸してくれるので、それを利用するといいいと思います。また、現地は天気が変わりやすく雨も多かったです。ですので、寝るとき晴れていても靴を含めたすべての荷物をテント内に収納したほうがよいです。私は一回靴を外に出したまま寝てしまい、翌日の朝ドライ

ヤーで 30 分以上靴を乾かす羽目になりました。しかし、テントで生活することにはよい点もたくさんあります。まず、近所のテントにすんでいる人たちと立ち話をして仲良くなることができます。さらにテントで過ごすサバイバル能力が身につく、ちょっとやそっとのことでは動揺しなくなります。結果的には私はテントを選んで非常によかったです。

さらに想定外だったのは洗濯です。私は CuriousU 期間中、洗濯機が使えると思っていましたが、洗濯機は寮にしかないため、テントに宿泊している私たちはお金を払って服を受付に預けてクリーニング業者に頼むしかありません。それもタオルや下着類 1 点で 1.5 ユーロ、ズボンなどは 5 ユーロ以上かかってしまいます。それを頭に入れて服装に関してはよく考えなければなりません。CuriousU 期間中は朝昼晩の食事が提供されますがほぼ朝昼はずっとパンとハムとチーズとまん丸の果物ですので飽きます。

#### 4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

オランダは比較的安全な国といわれていますが、とはいえ海外ですので、犯罪に巻き込まれる危険性については強く注意しました。まず 1 つは、スリや置き引きです。街中を観光するときにはリュックではなく斜めがけの鞆のベルトを絞ってなるべく短くしていました。また博物館、美術館ではリュックを持ち込めないところも多いので、危機管理のためだけでなく、リュック以外の小さめの身につけられるバッグがあるといいと思います。2 つ目は、大麻などの日本で禁止されている薬物です。オランダでは、大麻など日本で違法になっている薬物が合法なものもあります。街には coffee shop という名の薬物ショップがあったり普通の店にも置いてありそうだったりしたこともありましたが、これらには近づかないことで防ぐことができますが、CuriousU のイベントに参加していると、時々誘ってくる人がいます。これをしっかり断ることがもちろん不可欠です。

#### 5. 留学を終えて感じること & 留学を考えている学生へのメッセージ

この留学プログラムでは、ヨーロッパ、オランダの文化を体験することができるだけだけでなく、自分の興味のある分野について深くアクティブに、授業、イベント、日常生活を通じて多くの外国の人と友達になって、様々なことについて話すことができます。私は CuriousU での体験を通して、国際社会で学生どうしのコミュニケーションの回りかたや振る舞い方が少しわかったような気がしています。そしてこれから私たちは、今回であったような人たちと将来関わって行くのだという心構えができそのために次のステップとしてすべきことは何なのか、考えていく、良いきっかけとなりました。留学を考えている人にとってはこのプログラムはとても刺激的で収穫の多いプログラムだと思います。

6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考
航空運賃&ビザ申請料	260,000 円	奨学金を考慮していません。
海外旅行保険	10,000 円	
授業料（教材費含）	80,000 円	確認できなかったので不正確かもしれません。
滞在費（寮費など）	0 円	テント滞在だったため。
食費	7,000 円	CuriousU 期間中は朝昼晩の食事は提供されます。
交通費	5,000 円	
その他（小遣い、通信費など）	25,000 円	
計	387,000 円	

自由記述欄 \* 現地のおすすめ情報や留学エピソードなど自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓



CuriousU のイベントの中にはビーチバレー大会がありました。このビーチバレー大会ではいろんな国の人とチームを組んで戦いました。このビーチバレー自体もとても楽しかったのですが、これを通してもう一つよかったことがあります。写真の中に、オレンジ色の服を着た体の大きな審判がたっているのがわかると思います。試合中や、試合の合間などに彼と楽しくたくさんお話をして仲良くなれました。

（スポーツは審判との関係も大切ですので...？笑）彼は CuriousU のスタッフですのでその後毎日仲良くお話しするようになり、弟のようにかわいがってもらいました。後日に日本から持ってきたチキンラーメン（カップなし）を作りたいと思ったのですが、器もお湯もなく困っていました。そこで、彼に相談するとお湯は、今ないから今ぼくが作ってきてあげるよとってお湯を持ってきてくれました。さらに器のないことを話すと、ビールを入れる用のプラスチックのコップをもらっておいでというのでもらってきました。すると、これは、お湯に耐えられるかわからないからとってお湯に耐えられるか実験までしてくれて、ラーメンをつくってくれました。海外の人のこのような優しさに触れることができ、とてもうれしかったです。日本人の優しさとは少し違うことを感じ、外国に人の優しさも日本人のような優しさも持った人間になりたいなと思いました。



左側の彼は、私の親友の中国人のジャックくん  
です。彼とは本当にたくさん話をしましたが、  
その中でも印象に残っているのは彼と中国の  
政治体制について話をしたことです。中国の中  
にいる人がどのように中国の政治制度を捉え  
ているのかを聞くのは、興味深かったです。彼  
は多面的に深く政治のことについての考えを  
持っていて、感動しました。また、彼とお別れ  
するときには彼は中国の漢詩を歌ってくれまし  
た。中国、韓国、台湾の東アジア諸国の人は  
非常に似た価値観や感情を持っていてとても話  
しやすいです。将来にはそんな東アジア諸国の  
人たちとは特に仲良く手を取り合える関  
係を築いていきたいと思いました。





## 短期研修報告書

記入 | 2019年 9月

所属 & 学年 | 情報学部 1年生

留学先大学 (国名)	オランダ・トウェンテ大学
短期研修のプログラム名	欧州現代事情Ⅱ・CuriousU
留学した期間	2019年8月8日-21日

### 1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

私が本プログラムに参加しようと思った第一の理由は、自分の外交官になるという夢の実現のための第一歩として適していると感じたからである。この夢を実現するにあたって、必要なものは「英語力」、「幅広い知識」、そして「海外のものに関する理解」だが、本プログラムにはそれらを身につけさせてくれるコンテンツが含まれていた。

第二の理由としては、本プログラムで英語を使って専門授業を履修することが長期留学の準備になると思ったことがあげられる。いきなり長期の留学でオールイングリッシュの環境に飛び込むのではなく、このような短期のプログラムで感覚をつかみ留学前に対策をすることで、本番である長期留学がより実りあるものになると考えた。

また、他の数ある魅力的なプログラムからこれを選んだのは、英語圏への留学がしたかったことと海外経験がなかったため、比較的コンパクトに日程が組まれているものが良かったため。

申し込み手続に関しては、入金や書類の記入、CuriousU 自体の申し込みなどの他は旅行会社様が手配してくださったので、余計な心配をせずに済んだ。ただ、CuriousU の申し込みの際にクレジットカードが使えなかったり(PayPal を経由すれば使えた)、うまく登録が反映されていなかったりした。とはいえ、それに関しても CuriousU の担当者の方に連絡すれば優しく対応してくださったので、全く問題なく当日を迎えられた。

本プログラムに際しての英語の勉強は、先生に勧めていただいた英語表現の本を利用しつつ、基礎的な教室英語を使う準備をした。実際に質問等で何度か使う場面もあったので、やっておいたほうが良いと思う。

### 2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

CuriousU 開始前の数日間は、様々な観光地に行って博物館を訪れたり、現地の生活について学んだりした。まずはユトレヒトとザーンセ・スカンス観光をし、日本ではあまり見られないスケールの教会であるドム協会や、これまた日本にはあまり縁がない風車に触れ、改めてここが異国の地であることを実感した。そしてアムステルダム観光では、グループに分かれて自由行動をした。国立博物館であるライクスミュージアムや、写真美術館などを訪れ、今昔のアートトレンドに触れることが出来た。

そして今回の研修のメインである CuriousU では「英語で専門科目を履修する」というなかなかできない経験をした。私はあまり日本では進んでいない学問に触れたいと思い「Technology & Society」という、テクノロジーイノベーションに関するコースを履修した。1日3時間ずつの2コマを7日間受けるというなかなかハードスケジュールだったが、海

外視点でのイノベーションの捉え方を知ることが出来、非常に興味深かった。主に工学倫理やその他政治など様々な要素を勘案し、破壊的な性質(文化などが完全に形を変えてしまうという意味で)を持つイノベーションをいかにして安定させるかについてのレクチャーは、今は情報学部生として、そして未来の外交官として必ずやどこかで私を助けてくれることと思う。授業形態は、前半3日くらいは基礎的な事項を学び、後半4日間はプレゼンやディスカッションなどのアクティブラーニングに移っていくという形だった。また、課題としてレポートも課され、非常に振り返りに役立った。

また授業外でも、食事の時間やイベントの時間などで CuriousU の参加者と話したりする機会があった。そんななかで言語という壁とバックグラウンドという壁。この2つにぶち当たった。しかし、お互いが尊重し合い、英語という共通のツールを使うことで話すことが出来ることを身をもって理解した。このような貴重な経験が出来ただけでも参加した価値はあったと思う。

### 3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

アムステルダム滞在の際は、初めての海外だったこともあり、あえて特別なことはせずに、海外での生活に慣れることを意識した。具体的に言えばアムステルダム公園で日課のランニングを続けたり、趣味のYouTubeを見たりした。そのおかげか、割とすぐに現地の環境に慣れることが出来たと思う。ただトイレが圧倒的に少ないこと、あっても有料であることには最後まで慣れなかった。

宿泊はアムステルダムではホテル、CuriousU ではテントだった。前者に関しては非常に満足している。景色がいい、抜群のロケーション、朝食が美味しい、そしてベッドがフカフカ。特に朝食に関してはバイキングで、おなか一杯になるまでお肉を食べることが出来て幸せだった。水分なども売店で購入できるので、困らなかった。後者に関してはおおむね満足しているが、何点か困ったことがあった。1点目は、水分を確保する手段が乏しいことである。一応コンビニエンスストアがあるため購入は可能だが、買いに行く暇がほとんどなく、私は2日に1回ほど早めに食事を済ませ、水を買いだめしていた。2点目は雨が多いことである。テント住まいの人たちは雨が強すぎて体育館で避難、なんてこともあった。あと寒い。それはそれで楽しかったが、無理せずドミトリーやホテルなどにするのもありかもしれない。また湿気が多いため、バスタオルが乾かない。複数枚持って行ったほうが良いと思う。

食生活に関しては、お米が恋しくなるくらいで特に問題はない。むしろおいしすぎて感動した。カフェでハンバーガーを頼むと山盛りのポテトがついてくるのが最高。あとホテルのローストビーフも最高。水に関しては現地は日本と違い硬水で、少し口当たりが不思議である。スーパーにおいてある水は主に SPA と EVIAN だが、前者が日本の水の味に近く、非常に飲みやすかった。お試しあれ。

健康面は特に問題はなかった。飛行機で寝ずに現地のホテルについてから寝ることで時差ボケにも対処できた。

金銭面に関しては少し羽目を外して使いすぎたことと、これに関しては後述するが予定外の出費が多く、かなりお金を使ってしまったかもしれない。ただ、基本的にはお金を使うシーンが自由散策時の食事や交通費、お土産、水、CuriousU での洗濯 (これは少し高い、一回20ユーロ近くかかる) くらいなので、普通はそんなに使いすぎないだろう。

持参すべきものとしては、名古屋より寒冷な気候なので長そでの服がまず挙げられる。次に、雨が多いので雨具。できればタオルが複数枚。そして大きなキャリーケース。女子はドライヤーあたりが必要だろうか。私は半そでばかり持って行ってしまい、現地で大量の服を購入するという事態になった。またそのせいでキャリーケースが壊れ（初めて使ったにもかかわらず）てしまい、こちらも現地で購入する羽目に。悪いことは言わない、大人しく大きいキャリーケースを持って行くべきである。そして最後に、クレジットカードである。トウエンテ周辺のバスや幾つかのお店では現金での支払いが出来なかった。他にも飛行機の乗り継ぎで使った仁川空港などで小腹がすいたときなどに便利だ。これに関しては持っていくのがマストかもしれない。

逆に必要なかったかもしれないのは大容量 SIM カードである。オランダではさまざまな場所に Wi-Fi が設置してあり、あまりモバイル通信を使わなかった。結局 9GB 中 2GB しか使わず、もったいない気がした。現地のスーパーに安いプリペイドの SIM があるので、そちらを利用してみるのもいいだろう。なお、その場合でも SIM ロックの解除とアクティベーションコードの控えは忘れずに。

#### 4. 危機管理（身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど）

オランダは治安が良いと聞いていたので特に肩肘は張っていかなかったが、幾つかのことは気を付けていた。1 点目は荷物を取られない対策である。複数人で常に行動し、荷物をお互いの内側に入れることで、スリなどに会いづらくしていた。また、クレカや現金を様々なポケットに分散させて持つことで、取られても何とかできるようにしていた。2 点目は危ない目に合わない対策である。複数人で行動するのはもちろん、事前に調べておいた治安の悪い地区やコーヒーショップには近寄らないようにした。また、留学中も外務省の旅レジをこまめにチェックし、情報収集を徹底した。

#### 5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

留学を終えた今、一番印象に残っているのは英語の話しなさである。比較的英語には自信があったが、今回の留学を通して、自分には圧倒的にアウトプットが足りていないことが分かった。例えばスキポール空港の荷物検査でうまく意思疎通が取れず、ただパソコンを仕舞うのかどうか確認しようとしただけで怒られてしまったことがあった。もしもう少しだけでも自分の意志を表現する力があつたら、きっとこんなことは起きなかつただろう。英語というものはただ意志を伝えるだけのものではなく、人と人との間により関係を築くためのものであると改めて思い知った。

また、CuriousU で様々な人と知り合ったことで、私の視野は間違いなく広がった。英語があまりうまく話せない私に積極的に話しかけてくれる友人、そんな彼らとの間に聳え立つ文化という壁。そんな壁を乗り越えていくためには、やはりひたすら会話をし、自分の視野を広げるしかなかった。この経験は、今後様々な人とかわりあっていく中で必ずや活かされると思う。今回獲得した広い視野を大事にしていきたい。

今切に感じているのは「もう一度行きたい」ということである。やっと英語に耳が慣れ、積極的に発言が出来るようになったタイミングでの帰国は少し物寂しくあった。しかしながら英語学習や更なる海外への挑戦に対するモチベーションは飛躍的に上がったと思う。今後

は長期の交換留学に向け、このままの勢いで突き進みたい。そしていつか、荷物検査のお姉さんにリベンジ(?)したい。

もしこれを読んでくれている人の中で参加を迷っている人がいるなら、私は強く参加をお勧めしたい。きっとあなたにも様々な思惑があって参加したいと思っているのだろう。このプログラムはあなたのその思惑を成就、もしくはそれに寄与すると断言しよう。私自身、様々な失敗や成功を経験したが、その全てが今のモチベーションにつながっている。遠く感じられた夢に今はなんだか手が届きそうな気がする。モチベーションは後から高めればよい。まずは海外に飛び出してみるべきだ。準備にたくさん時間をかけて、実りある研修としてほしい。

#### 6. 研修費用 (さしつかえなければおおよその金額を教えてください)

内訳	おおよその額	備考
航空運賃&ビザ申請料	215450 円	旅行会社様の方でまとめて手続きしていただいた。 交通費 (航空券とバス)、ホテル代。
ホテル代		
海外旅行保険	15170 円	東京海上日動 海外旅行保険 3HA タイプ
授業料 (教材費含)	77027 円	CuriousU の参加費として 600 ユーロ納入。 食事、授業料、宿泊代含む。
滞在費 (寮費など)		
食費	約 12000 円	アムステルダム観光、CuriousU の Free day、最終日に使用
交通費	約 5000 円	アムステルダム観光、CuriousU の Free day、最終日のスキポール空港までの費用
その他 (小遣い、通信費など)	約 50000 円	お土産代と SIM カード代
計	約 375000 円	

自由記述欄 \*現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

#### 訪れた観光地の紹介

ぜひ、オランダに行く際の参考にしてください。



#### Rijks Museum :

オランダの国立美術館。ゴッホやフェルメールなどのヨーロッパを代表する画家の作品の他、日本からの作品もあり、バラエティに富んでいた。また、お土産屋さんのセンスが良い。私はトートを3つ買ってしまった。



### ミニ Rijks Museum :

スキポール空港で搭乗手続きを済ませ、あとは飛行機に乗り込むだけ…と思っていた我々の眼前に現れた Rijks Museum スキポール空港出張所。実際に Rijks Museum から持ってきた絵画などがあり、ここを見ずして Rijks Museum を味わいつくしたとは言えないだろう。

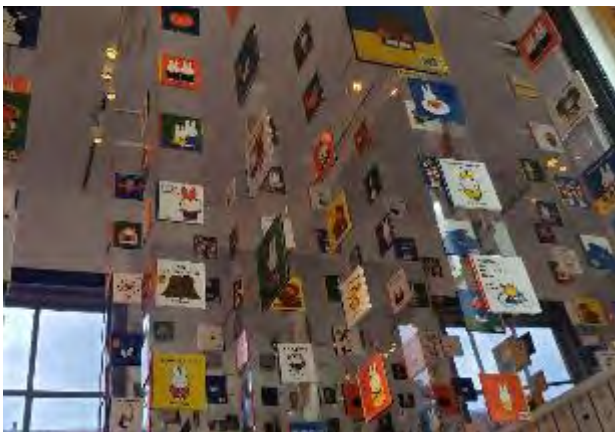


### Foam 写真美術館 :

アムステルダムにある、主に新進気鋭の若手作家の写真を展示する美術館。機械技術等を使った現代アートが沢山ある。Rijks Museum のすぐ近くにあるので、2 つとも一緒に回ってしまうのがおすすめ。今と昔の違いが感じられる。また、最上階では写真作品の販売も行っている。1 枚 10000 円ほどだが、どれも非常に美しかった。なお、この美術館はクレジットカードでしか入場が出来ないため、興味を持った人は日本でクレジットカードを作成するのを忘れないように。

### オルゴール博物館 :

ユトレヒトにあるオルゴール専門の博物館。右図のように、もはやオルゴールという一つの巨大な楽器のようになっているものもあり、その迫力とはてつもない。入り口で日本語のガイドブックももらえる。(私のだけ英語だったが。)



### Nijntje Museum :

同じくユトレヒトにある、ミッフィーのミュージアム。ミッフィーの歴代の絵本や、ミッフィーにちなんだおもちゃなどが置いてあった。かわいいもの好きの私としては最高の空間だった。1 日の入場者数が決まっているので事前の予約をお勧めする。

### ザーンセ・スカンス：

オランダにある風車村。チーズやチョコレートなどを売っている。私のお勧めはチョコドリンク。ここで引いたカカオと、ここでとれた牛乳を使っており、非常においしかった。風車の中に入ることもでき、中でぐるぐる回るスクリューを観察できた。



### CuriousU での活動の紹介



こちらは初日のウォーキングの催しの様子。これから一緒に勉強していく仲間と出会うことが出来、非常に有意義なものだった。

初日の会食の様子。取ったコースごとに分かれてピザを食べる。自分と同じ興味分野を持つ人と、熱く語り合った。



Free day で友人たちと行ったオランダとドイツの国境の町、グラネルブルグ。オランダの領地なのに町の中はドイツ系の人や、ドイツ系の店であふれていた。日本には感じられない EU という結びつき、ひいては国自体の強固な結びつきを感じることが出来た。写真はオランダとドイツの国境をまたいでいる私。



国境にあった境界石(木?)。境界石という意味の単語が右上にはオランダ語で、左下にはドイツ語で書いてある。



コース全員でのティータイムの様子。様々なバックグラウンドを持つ人たちが、一堂に会して同じ専門科目を取るとい貴重な経験を通し、謎の親近感が生まれた。言語が違えど、文化が違えど、結局は同じお菓子を食べて、同じ飲み物を飲んで「美味しい」と思う同じ人間なのである。いつか、またお互いの国へ行き、お互いの国を紹介しよう、という約束をして、本プログラムは幕を閉じた。

Certificate をもらった後の私。なんだか誇らしい。ちなみにこの Certificate、EU の単位互換協定で、ヨーロッパでは正式に 2 単位になるんだとか！…心なしか、EU の単位を持っている男の面構えになっている気がする。



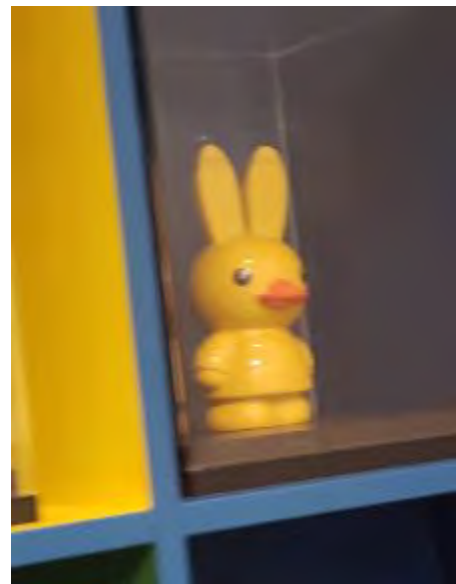
#### おまけ：オランダにあった変な物たち

ここからはオランダで見つけた面白いもの、変なものをいくつか紹介する。場所を大雑把に書いておくのでぜひオランダに行った際は探してみてください。



表がミッフィー、裏が…な像  
(ユトレヒトの Nijntje Museum 付近)

ミッ…ひよこ。(ユトレヒトの Nijntje Museum)



ご存じミッフィー信号。一生ここを横断して  
いたい。(ユトレヒト)



服屋さんの看板。  
なぜたまごを選んだのだろうか。  
(ユトレヒト)



今にも打たれそう。な躍動感ある像(Rijks  
Museum)

なぜか各国の言葉で書かれるリスニングと  
スピーキング。言語教育への意識の高さが伺  
える。(トゥエンテ大学)





やっぱり KIKKOMAN は世界一！  
寿司の隣に置いてあった。（トゥエンテ大学）

何とびっくり大量のモンスター！  
トゥエンテの学生さんもこれ飲んで徹夜しているのだろうか。ちなみにフレーバーは日本にはないものばかり。逆に日本でメジャーな緑や青はない模様。研修中に課題に追われているあなた、飲んでみてはいかが？  
（トゥエンテ大学）



いかがだったでしょうか。私の体験記が留学を考えているあなたの後押しになることを祈っている。

# 短期研修報告書

記入 | 2019年 9月

所属&学年 | 情報学部 1年生

留学先大学 (国名)	オランダ・トウェンテ大学
短期研修のプログラム名	欧州現代事情Ⅱ・CuriousU
留学した期間	2019年8月8日-21日

## 1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

私は情報学部所属しており、将来的には世界に情報を発信する仕事に就きたいと思っている。普段ニュースなどを見ていて、日本から見た海外という先入観などが内容の表現に含まれているのではないかとよく考える。そこで、知人から勧められた名古屋大学の短期研修プログラムを活用して海外生活を体験し、日本からだけではなく海外からの視野を少しでも広げたいと考えこのプログラムに参加した。数ある海外研修プログラムの中でこのプログラムに参加した理由は、海外に行くのであればヨーロッパに行ってみたいと考えていたからである。また、このプログラムは実際にオランダの大学のイベントに参加し専門科目についての授業を英語で受けることができるというものだった。コースを調べていく中で自分が興味のあるコースがあったので、生の英語に触れながら興味のあることについて学ぶことができるプログラムだったので参加を決めた。

申込手続に関しては、私は直前まで悩んでいたり親に伝えるのが遅くなってしまったりしたのでかなりタイトなスケジュールになってしまった。ほんの少しでも留学を考えている人にはアンテナを高くして自主的に情報を集めることをおすすめする。説明会に参加し、個別相談を予約して参加に際しての疑問を解消し、webでの履修登録と海外留学室への関連書類の提出を行うという流れがあるので、早め早めから取り組むのがよい。パスポート取得なども申込に必要になってくるのでこちらも早めに用意しておくべきである。提出する書類以外にも、事前授業が始まってから海外旅行保険に入る必要もある。

## 2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

アムステルダム滞在中は少人数の任意のグループになり自分たちの行きたいところへ一日訪れた。グループの中で行きたいと思う場所を事前にいくつかピックアップし、位置に応じてスケジュールを立てて行動した。私たちのグループはアムステルダム国立博物館やシングルの花市場を訪れ、さらにオランダの川を船で巡るツアーにも参加した。

CuriousUでは”Technology & Society”という授業に出席した。基本的に授業は午前と午後それぞれ90分×2コマの授業であったが、その中ではちょうど90分ずつで分かれているというわけではなく、教授によって使い方がかなり異なっていた。”Technology & Society”の授業は講義を主とし、その中にディスカッションやピッチと呼ばれる小スピーチが織り込まれている形式だった。私たちのクラスは同年代の学生が名古屋大学の学生と中国から来た学生のみで10人おらず、他の参加者は博士号をもった学生や教授などがほとんどだった。授業の内容としては昔から現在に至るまで社会に浸透してきた技術に関してそれがどのような影響を社会に与えたのか、哲学的にはどのような意味を持つのか、「よいテクノロジー」とは

何か、技術のニーズの考え方など技術に関する幅広い知識を哲学的な面を中心に学んだ。

グループワークとして、“Technological innovation”とは何か、またモラルの概念を崩壊させるようなテクノロジーにはどのようなものがあるかをいくつかのグループに分かれてディスカッションをし、その内容を簡単にスピーチするというものがあった。また、例年通りかはわからないが“Technology & Society”のクラスでは最後に英語によるレポートを提出する課題があり、授業を通じて自分の考えるテクノロジーの定義がどのように変わったか、授業の中で一番面白かった内容と面白くなかった内容を書くものが課された。

学生同士の交流については、自分から話しかけることができれば交流をはかることができるが、逆に言えば自分から動かなければ交流は難しいと感じた。基本的には出身地や年、どのコースをとっているかなどを話し、より仲良くなれた学生とはオランダに来てからトゥエンテ大学に来るまでどのように過ごしたかやお互いの国が抱える問題について話したり、日本の文化や年について教えたりもした。

### 3. 生活（住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど）

アムステルダム滞在中のホテルに関してはほぼ不自由はないと思われる。CuriousUにも共通して言えることだが、特に女子はボディソープ、シャンプー、リンス、洗顔料を自分で持っていくとよい。ホテルにはあることはあるが量が少し心許ない。CuriousUに至ってはスポーツジムに備え付けのシャワールームしかないのもそういったアメニティのようなものは存在しない。また、シャワールームと脱衣所は一体になっているので脱衣所の床が高確率でぬれている。床を軽く拭けるものがあるとベストだが、なくてもなんとかなる。また、ドライヤーも CuriousU にはない。プログラム中も何人かの女子がドライヤーがなくて困っていたので持っていくことをおすすめする。海外電圧対応のドライヤーが 3000 円ほどで買って、変圧器と一緒に持ち歩く必要がなかったので楽だった。

CuriousU 中の滞在にテントを選んだ人は寒さ対策を十分にすべき。大学の教授は「今年は寒くて運が悪いね」とおっしゃっていたが、来年暖かくなるとも限らない。半袖だととても寒い。滞在中の服装は長袖を推奨する。しかし、1 日の中で気温差があるのも事実で、半袖の上に羽織のパーカーを着るというのも一つの選択肢である。大学内で購入した少し厚手のパーカーでも快適に過ごせた。女子は、プログラム中はズボンだと動きやすくよいと思う。ただ、アムステルダム滞在中に博物館や美術館など少し格式高いところに行く場合はワンピースもしくはスカートが一枚あるとよい。

オランダは雨が多く、スコールが降ることもよくある。折りたたみ傘があると非常に便利。テント生活にも共通して、地面や芝生がぬれていくつに浸水することもある。なくても大丈夫だが、荷物に余裕がある場合はサンダルもあるとよい。私は研修前と研修後でキャリーケースの重さが 6、7kg 増えたので何でもかんでも持って行こうとすると帰りの荷物検査に引っかかるかもしれない。

食生活は、私が行ったお店の運がよかったのか口に合わないものはほぼなかった。研修中は日本と同じタイプの白米には出会えず、米を食べられたとしてもタイ米になる。パンばかりだが、おいしいので研修全体を通して全く苦にはならなかった。

健康管理は前述の通り寒さ対策をしっかりと、あとはしっかり寝ること。私は家に帰ってくるまで時差ぼけを実感しなかったが、時差ぼけになっても目をつぶっておくときちんと休むことができると思う。



私は研修にクレジットカードと現金とキャッシュパスポートを持って行ったがキャッシュパスポートは一度も使っていない。クレジットカードと現金があれば事足りると思われる。また、オランダはクレジットカードでなければ料金を払うことができない店もしばしばあったので持っていない人は作るべき。現金を持ち歩くときは2箇所ほどに分けて持ち歩いた。アムステルダムでの自由行動の時は必要な分を二つに分け、残りはホテルの金庫に預ける形をとった。

#### 4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

とにかく一人にならないことを心がけた。店内を一人で行動することはときどきあったが、街中で一人になることは指導されていたこともあってしなかった。今年通りであればホテルの部屋を行動の最小単位とするように指導されるし、プログラム中にあるフリーデイもよっぽど一人になることはないと思うが、十分に気を付けるべき。

また、アムステルダムのような大都市になると交通量が非常に多く、また大都市でなくても自転車文化であるため自転車がそこら中を走っている。一度、人混みの中から急に自転車が走ってきてぶつかるのではないかと危険を感じたことがあった。オランダに住む人にとっては日常のことなのかもしれないが、特になれていない留学生は注意が必要だと思った。

さらに、こちらでも指導を受けるだろうが、オランダは薬物が合法とされる国である。街中を歩いていてもマリファナの葉をデザインしたグッズなどが売っているのをたくさん目にした。普通に街を歩いている分には使用中の現場に遭うことは少ないと思うが、もしかしたら薬物を勧められるかもしれないので気を付けること。オランダで言う「コーヒーショップ (coffee shop)」はカフェではなくマリファナのような薬物を購入、使用するための店なので安易に入ろうとしたりしない。こういった事前知識があると心構えができるので自分でも調べてみるとよいと思う。

#### 5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

私たちのグループは全員”Technology & Society”で、共通してリスニングができなかったという反省点があった。教授の話やディスカッションの時の他の参加者の話が聞けないことが多かった。また、かなり専門的な内容の授業だったのでテクニカルタームが多く理解できないところもあった。英語の動画などを見て耳を慣らしておくで違ったかもしれないと感じた。リスニング教材としてはTEDなどが適切かと思われる。

私たちのクラスは前述の通り教授や博士、修士課程の学生が多くいる授業であった。そういった人たちの意見をディスカッションで聞くことができたのはとても貴重な経験となった。難しいコースではあったが、次回もこのコースがあれば、工学倫理に興味がある人はとってみるとためになる話が聞けると思う。

留学を終えて、最初はこのプログラムに参加しようかと迷っていたが参加してよかったと思っている。海外に出て、オランダ人だけでなくプログラムに参加しているたくさんの国の人と話すことができた。他国の文化に触れて、日本と違うところも発見した。視野を広げるという私の目標を達成するのに最適なプログラムだったと感じている。いろいろな国の人と話して友達を作る機会がほしい人はぜひとってみるべきだと思う。また、生の英語に触れ

ながら専門科目について学びたい人にもふさわしいプログラムだと思われる。私自身最初はこの研修に対する不安なども多く、今実際に研修に参加するか悩んでいる人もいるかもしれない。しかし、英語は自分の話そうとする意識でなんとかなるし、学べることがとにかく多い研修なので一つでも行きたい理由を見出せるのであれば参加すると貴重な経験ができるはずだ。事前、事後授業でも熱心に指導していただけるのでモチベーションもより上がると思う。

#### 6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考
航空運賃&ビザ申請料	215,450 円	
海外旅行保険	13,270 円	3HB タイプを選択した。
授業料（教材費含） 滞在費（寮費など）	約 70,800 円	宿泊にはテントを利用したので CuriousU の寮費は 0 円。
食費	約 10,000 円	ざっくりとした値段。
交通費	約 2,294 円	トラム（路面電車）やオランダ鉄道、地下鉄、バスを使用。
その他（小遣い、通信費など）	約 50,530 円	SIM カード+現金のお小遣い+クレカで支払った代金。SIM は買っても現地で使えない場所があったりする。現金は 30,000 円分ほど持っていった。
計	約 362,344 円	現地ではクレカがあれば心配いらぬが使いすぎに注意。

自由記述欄 \* 現地のおすすめ情報や留学エピソードなど自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓



アムステルダム滞在中、1 日アムステルダム観光ができる日があり私たちは国立美術館に行った。フェルメールの『牛乳を注ぐ女』やゴッホの『自画像』、レンブラントの『夜警』など有名な作品を近くで見ることができた。本物を見ることができるとはなかなかないので貴重な経験になった。



CuriousU には右の写真ほど多くの学生や教授が参加していた。出身国も様々で中国をはじめイタリア、ドイツ、ルーマニア、インドネシア、アゼルバイジャン、ポルトガル、ギリシャなど日本国内で生活しては出会うことの少ない国から来た人と話すことができた。それぞれ来た地域が違うので、国が抱えている問題なども私が知らないものばかりだった。

また、日本のことをなんとなく知っているけれど詳しくは知らないという人が多かったので日本の、特に私たちの住む愛知県や名古屋のことについて話し魅力などを伝えることができた。話した学生によっては名古屋に住むために必要なお金まで調べてくれた人がいてうれしかった。研修終了後も連絡を取れるように研修中に連絡先を交換した学生も何人もいる。海外の各地にいる友人を作りたいという人にはおすすめのプログラムである。

# 短期研修報告書

記入 | 2019年 9月

所属 & 学年 | 経済学部 1年生

留学先大学 (国名)	オランダ・トウェンテ大学
短期研修のプログラム名	欧州現代事情Ⅱ・CuriousU
留学した期間	2019年8月8日-21日

## 1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

世界各国から学生が集まって現地で自分のとりたい授業が受けられるこのプログラムが自分にぴったりだと思ったからです。私は留学先で英語を使って経済学を学びたかったのでそれが叶いました。英語の勉強としては、名古屋大学に留学している留学生の子と専門的な話、例えば、自分が普段学部でどんな授業を受けているかやそれぞれの国の政治制度についての説明をしあったりしました。あとは、TOEFLの問題集で消化し切れていなかったものの残りを消化しました。

## 2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

アムステルダム滞在は事前にグループの人たちと何でどこに何時くらいに行って何をするのか決めて行きました。電車やトラムも自分たちで乗らないといけないので計画を立てないと結構時間がないです。CuriousU では risk management の授業をとりました。Risk management の説明を受けた後、その知識を使って具体例や実践的な身近な対応についてグループで話し合っ発表しました。City center に行ってお店の人に日常の risk management についてインタビューしたものを TA の人に報告したりしました。最後の授業では授業で学んだことをまとめて絵などを交えてわかりやすく発表しました。教授の話をただ聞くか、グループの皆で話し合っ発表するかの2種類でした。

## 3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

アムステルダム滞在まではホテルなので特に困ることはないです。CuriousU でテント滞在にする場合は防寒対策が必須です。虫が苦手な人やトイレ、シャワーが遠いのが嫌な人は寮かログキャビンにしましょう。ヒートテック、ドライヤー、ヘアアイロンは寒さ対策にも必要です。ただし、海外対応のものにしないと使えないので早めに確認しておくといいと思います。ログキャビンは1つの部屋に10人くらいいるので寂しくなくていいと思います。

## 4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

パスポートとクレジットカード、現金の半分くらいはポーチに入れて首から提げて服の中にいれていました。リュックではなく肩掛けの鞆をかけてそれを前に持ってきて常に荷物が自分の目の届くところにあるようにしました。



## 5. 留学を終えて感じる事&留学を考えている学生へのメッセージ

英語でしかコミュニケーションをとれないと言うことで、普段ならどうせ伝わらないだろう、英語で表現できないだろう、というようなことまで英語を使って話さなければいけません。そういう環境が自分の英語で伝える力を伸ばしてくれたと思います。また、英語で授業を受け、グループワークを行ったりプレゼンを行ったりするのは上手にできた、できなかったに関わらず自身につながると思います。

## 6. 研修費用 (さしつかえなければおおよその金額を教えてください)

内訳	おおよその額	備考
航空運賃&ビザ申請料	220,000 円	
海外旅行保険	20,000 円	1 番安いのに入りました
授業料 (教材費含)	円	滞在費に含めました
滞在費 (寮費など)	90,000 円	CuriousU の参加費です
食費	5,000 円	
交通費	3,000 円	
その他 (小遣い、通信費など)	42,000 円	Wi-Fi とお土産
計	380,000 円	

自由記述欄 \*現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓

フリーデイはオランダの別の大学に留学している子がオランダの zwolle という都市を案内してくれました。アムステルダムとはまた違った雰囲気を味わえてとても気に入りました。ドイツやアムステルダムよりも大学から近いので行きやすいです。現地のこと詳しい子がいると、空港までの帰り方や有名なお土産なども聞けてとても助かります。電車は大人数なほど安くチケットが買えるので 4 人以上で行動することをおすすめします。

# 短期研修報告書

記入 | 2019年 9月

所属 & 学年 | 理学部 1年生

留学先大学 (国名)	オランダ・トウエンテ大学
短期研修のプログラム名	欧州現代事情Ⅱ・CuriousU
留学した期間	2019年8月8日-21日

## 1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

英語圏での長期留学をしたいと考えていたので、その前に、英語を学べる短期留学を経験したいと思い応募した。この研修は、英語圏の他の研修よりは費用が高くなかったことも応募した理由の一つだった。

この研修では、多くの授業の中から一つ選び、現地の大学で英語による授業をうけるので、自分の興味のある授業を受講でき、英語の使用に慣れることも出来ると思い、魅力を感じた。また、世界各国から多くの参加者が集まる点にも魅力を感じた。

語学対策としては TOEFL のリスニング問題を頻繁に聞いていた。

## 2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

私はアカデミックな場面で用いる英語のスキルについて学んだ。文法問題から論文等で用いる引用の仕方、ディベートゲーム、プレゼンテーションなどについて学べることが出来た。授業形態はプリントの問題を解いて解説を聞くことが多かったが、グループワークもあった。

15分程度のプレゼンも行った。英語でのプレゼンやアカデミックな英語特有のルールを学ぶ経験は自分にはあまりなかったので有意義だった。

授業時間は、一日あたり約7時間で、休憩も何回かあった。これを7日間行った。このクラスの多くは日本人が占めており、外国人は少なかった。そのため、外国人のクラスメイトと話そうとすると必然的に同じ人たちと話すことになり、関係は自然に深まった。

先生が授業で話す英語は、私が今までに聞いてきた日本人教師が話す英語より格段にスピードが速く、聞き取れないことも多かった。しかし、個人的に質問したりすると、親切に答えてもらった。外国人のクラスメイトに助けをもらうことも多かったので、教室では外国人の隣に座ることを心がけた。

昼休憩や夜などの自由時間も、外国人と友人と多く時間を過ごした。スポーツ施設を利用したり、イベントに参加することも多かった。日常会話も英語で話すより楽しめた。

## 3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

アムステルダム滞在中に感じた不満は、水の値段が高いこと、有料のトイレが多いこと、現金が使えない場合が多いことだった。水はマーケットで買うのが安かった。移動手段としてトラムを使ったが、料金は現金で払えなかった。

アムステルダム内で安く食事を食べられる場所は思っていたより少なかった。あらかじめ場所を決めておいた方が良かった。ワッフルやクッキー等のお菓子は、日本のものより、

味、種類の多さともに格段に優れていると感じた。

トゥエンテ大学には、私はテントに滞在していたが、夜はとても寒かったので、寝袋を二枚借りた。オランダは日本の夏と比べかなり寒く、防寒着は必須だと感じた。また、雨はほぼ毎日、断続的に降ったので、折りたたみ傘を持ち歩いていた。私のテントには、雨水が入り込んでいた。他の日本人の方の多くも、テントについて文句を言っていたが、テントの方が費用が安い、メインテントに近いなどの利点もあった。

トゥエンテでの朝食と昼食は毎日ほぼ同じでサンドイッチだった。少し残念だった。

#### 4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

鞆を前に持つ。財布は鞆の中。パスポート本体はスーツケースにしまうなど。

自転車用道路を走る自転車が一番怖かった。気づかずに自転車用道路に入り込むことがよくあった。

#### 5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

英語を使うこと慣れることができ、海外に友人も出来たので収穫が多く、楽しめた。参加者のなかで英語が喋れないのは、自分も含めた日本人の集団だけなのかと思うほど、海外の参加者は英語が上手だったと感じ、英語学習へのモチベーションも上がった。

留学に興味があるなら、1年生でも勇気を出して行くべきだと思います。もし価値観が変わるなら早いほうが良いと思うからです。名古屋で退屈な日々をおくるより、留学して良かったと思っています。

#### 6. 研修費用 (さしつかえなければおおよその金額を教えてください)

内訳	おおよその額	備考
航空運賃&ビザ申請料	215,450 円	
海外旅行保険	11,910 円	
授業料 (教材費含)	約 70,000 円	テント滞在費込み
滞在費 (寮費など)	円	
食費	円	
交通費	円	
その他 (小遣い、通信費など)	約 75,000 円	食費、交通費込み
計	約 372,360 円	奨学金 8 万円込み

## 自由記述欄

イタリア人とロシア人の友達とメインテントでよくトランプをして楽しんだ。ババ抜きなど日本で有名なゲームも、彼らは知らなかった。英語でルールを説明するのは難しかったが、彼らのゲームのルールを英語で理解する方が難しかった。右の写真はメインテント内と、個別の宿泊用テント。



アムステルダム滞在中にフリーマーケットで見つけた大麻。大麻入りチョコレートやキャンディも売っていた。オランダでは合法。

アムステルダムでは、運河巡りも楽しめた。景観が綺麗なので、見て回るだけで楽しめた。



## 短期研修報告書

記入 | 2019年 9月7日

所属 & 学年 | 文学部 1年生

留学先大学 (国名)	オランダ・トウェンテ大学
短期研修のプログラム名	欧州現代事情Ⅱ・CuriousU
留学した期間	2019年8月8日-21日

### 1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

大学構内でテントに宿泊するため、他のプログラムに比べて研修費用が安かったことが一番の理由です。また、自分の専攻分野に近い内容の授業があり、オランダではその研究が発達していたため選択しました。

事前授業では、研修中に役立つような自己紹介や、授業に関連した文献の紹介文を考えることを通じて、発表に役立つモデルを実践しました。また、異文化理解について学んだり、研修中に達成したい目標を考えたりしました。出発前、勉強はほとんどしませんでした。やっておけばよかったと後悔しています。

### 2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

一日目はバス移動で、全員でユトレヒトとザーンセスカンス観光。しかしどちらも現地で自由行動をしました。二日目はアムステルダムで自由行動。開始時間から自由です。

Health&Happinessでは、自分の心情に関する経験を共有したり、実際に療法を行ってその体験についてディスカッションしたりすることが多かったと思います。とにかく些細なことでも自分の意見を出すことが求められました。プレゼンは、デザインのコースの人たちと組んで、大学生活でストレスを減らすデバイスについて考え発表しました。

### 3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

大学でもホテルでも洗濯の料金が高いので、何かしらの対策を考えておくといいと思います。大学で提供される食事はパンが主食なので飽きるかもしれません。

### 4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

リュックサックのファスナーにカギをつけたり、前に抱えたり、ポケットの出し入れしやすいところに物をいれないようにするなどの対策をしました。また、財布を頻繁に出しお金を持っているところを見せないように気を付けました。滞在中、テントのファスナーにカギを付けている人もいました。

### 5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

国際社会に出たいと思うなら、日本で与えられるものを受け取るだけでは不十分ということが分かりました。英語はそこそこできるつもりだったので、一度自分の甘い考えを改めるのにはとてもいい機会でした。英語が上達したわけではありませんが、英語をもっと学びたいというモチベーションが高まりました。



6. 研修費用（さしつかえなければおおよその金額を教えてください）

内訳	おおよその額	備考
航空券	210,000 円	
海外旅行保険	13,000 円	
授業料（教材費含）・滞在費	72,000 円	
食費(研修外)	10,000 円	
交通費	6,000 円	
その他（小遣い・通信費）	30,000+2,500 円	
計	約 330,000 円	

自由記述欄 \*現地のおすすめ情報や留学エピソードなど自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓



これは夜のイベントで、リーン生産システムのゲームをした時の記念写真です。私たちのチームは優勝した景品としてオランダのお菓子として有名なストロップワッフルをもらいました。



Health & Happiness の全員で撮った写真です。



オランダも“映え”では負けません！ミッフィーや風車がとても可愛く、素敵な街並みがあります。

# 短期研修報告書

記入 | 2019年 9月  
所属 & 学年 | 文学部 1年生

留学先大学 (国名)	オランダ・トウェンテ大学
短期研修のプログラム名	欧州現代事情Ⅱ・CuriousU
留学した期間	2019年8月8日-21日

## 1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

長期留学を考えているため、ただの語学研修ではなく英語をツールとして専門的なことを学ぶという形式に惹かれました。また、プログラム内の企画やテント泊などこの研修でなければ体験できないことが多いのも理由の1つでした。

語学対策は特にしておらず、いつも聞いている英語のラジオを聞き続けていただけでしたが、中央図書館や留学相談室の英語ワークショップやイベントには積極的に参加して英語を聞いて話す環境に慣らしていきました。

## 2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

Curious U では English for academic purposes のコースを履修しました。午前・午後3時間ずつの授業でした。このコースではアカデミック英語をプリントや動画、先生の話やディスカッションをしながら学びました。20人弱のクラスのうち11人が名大生だったので、少人数でのグループワーク時には名大生みのグループになってしまうこともありましたが、基本的には皆英語を使うようにしていました。最後のプレゼンテーションは20分間と長く大変でしたが、エッセイ提出などの自主課題も含め、先生からのフィードバックはとても丁寧でためになりました。

Curious U の最大の特徴は世界各地から学生が集まり、レクリエーション要素のあるプログラムの中で、気軽に交流ができることだと思います。意外と参加者に院生や社会人などの大人も多く、そのような方々と話すのも貴重な体験でした。

## 3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

アムステルダムは特にですが、オランダではよくスコールのような雨が降ります。傘で間に合いますが、観光時などは合羽があると便利だと思います。それから、予想以上に寒かったため、大学で厚手の大学記念トレーナーを買いました。この寒さで風邪気味になったので、日本から持参した飲み慣れた風邪薬は役立ちました。

また、大学で頼むランドリーはかなり割高なので、観光中に滞在したホテルで一度手洗したり、ドミトリーの人に洗濯を頼んだり、日数分の下着を持参したりすることが必要です。

金銭管理について、物価は日本と比べるとものによっては少し高い印象でしたが、個人的にはそこまで異なるとは感じませんでした。しかし、クレジットカードを利用する機会が多いので、家計簿アプリなどで把握しておかないと後で請求額がかさんでしまうと思います。

#### 4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)

持ち歩くかばんはショルダーバッグにして肌身離さないようにして、鍵をつけました。大学に着いてからは、鍵をテントに付け替えて貴重品は小さなポシェットに入れて首から提げていました。

治安は思っていたよりも良い印象でしたが、エンスヘーデの市街地などでの自由行動中に物騒な男性に声をかけられるなど危険を感じる場面はあったので油断は禁物です。

#### 5. 留学を終えて感じること&留学を考えている学生へのメッセージ

日常会話にも英語を使う状況に身を置いたことで、英語をツールとして使う難しさを痛感しました。さらに、海外の人にもっと自分の考えを伝えたい、相手の考えを理解したいという気持ちが強まったことで、今後の学習のモチベーションも向上したのでとても良い経験が得られたと思います。

初めて留学する方は特に留学の決断に勇気が必要だと思いますが、行ってしまえば後はがむしゃらに頑張るだけですし、行かなければ始まりません。また、1つでもいいので明確な目標を持って留学すると、得られるものも大きいです。ぜひ迷っている方は目標を洗い出して一歩を踏み出してみてください。

#### 6. 研修費用 (さしつかえなければおおよその金額を教えてください)

内訳	おおよその額	備考
海外旅行保険	12,370 円	東京海上日動海外旅行保険
授業料 (教材費含)	€600	食費込みで、テントなら追加料金要りません。
滞在費・交通費	215,450 円	旅行会社にバス・飛行機・ホテル代を払いました。
通信費	13,200 円	ポケット wifi(学内や公共施設内に無料 wifi あります。)
小遣い	約 210€と約 12,000 円	自由行動中の交通費、食費、美術館などのチケット代、お土産代などです。日本円はクレジットカード払いの分です。
計	約 35 万円	この内 8 万円は JASSO 奨学金をいただきました。

自由記述欄 \*現地のおすすめ情報や留学エピソードなど自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓



アムステルダム観光中に立ち寄った singel の花市場の様子です。とても活気があるうえに、チューリップの球根だけでなく、木靴やマグネットなどの小物などのお土産が売られていたり、付近に有名なチーズのお店があったりとオランダらしいものに出会えるのでおすすめです。



Curious U の Music Night 中の一枚です。ダンスが得意でない私も含め、皆がバンドの演奏に合わせてノリノリで踊っていました。他にもビーチバレーなどのレクリエーションなどがありました。音楽とスポーツは万国共通だと強く感じた瞬間でした。

ちなみに右のロシア美女とルーマニア美女はとてもダンスが上手でした。



Curious U 中に 1 日設けられたフリーデーでは、鉄道を使ってドイツのミュンスターまで足を伸ばしました。美しい教会をいくつもみた他、土曜日だったこともあって町はマーケットで賑わっていて、生鮮食品を扱うものやフリーマーケットのようなもの、骨董市のようなものまであり新鮮でした。

ドイツといえばソーセージということで、屋台でホットドッグを食べました。実はこのソーセージ、50cm の長さがあり、目の前で屋台のおじさんが二つ折りにしてパンに挟んでくれました。もちろん、味は格別でした。

# 短期研修報告書

記入 | 2019年 9月

所属&学年 | 情報学部 1年生

留学先大学 (国名)	オランダ・トウェンテ大学
短期研修のプログラム名	欧州現代事情II・CuriousU
留学した期間	2019年8月8日-21日

## 1. 留学前の準備 (応募のきっかけや動機、申込手続、語学対策など)

一度留学を経験してみたいと思い、大学で行われた留学説明会に赴いた際に、この研修が紹介されていて興味を持ちました。応募した理由は立地もありますが、語学学習だけでなく専門授業を英語で受ける機会を得られるという点に惹かれたからです。

申し込み手続はCurious Uのサイトで授業の申し込みと授業料の支払いを、アークスリーの申し込み用紙で飛行機やホテル、バス等の申し込みをしました。

語学対策としてぎゅっとe、TOEFLの対策問題集についていたリスニングのCD、単語帳、また海外留学室に勧められた対策用の本などを使いました。しかし、色々と手を打っても語彙力が足りないと留学中に強く感じました。

## 2. 研修内容や学校 (内容と時間数・形態、授業の感想、学生同士の交流など)

授業のコマ数は、午前3時間+午後3時間が7日間の計14コマでした。リスクマネジメントの講義では、リスクの定義や有効な分析法、様々なリスク (IT中心) などを教わりました。私のクラスは講義形式が殆どで、スライドを用いた講義を聞くというものでした。ワークショップもあり、街に出て店の人に授業に関することを質問するというのをしました。

交流に関しては様々な国籍や学年 (社会人も) の生徒がいたので様々な話をする事ができました。ご飯を一緒に食べたりフェスティバルと一緒に参加することで交流を図りました。

## 3. 生活 (住環境、食生活や健康管理、金銭管理、持参して良かったものなど)

お金は案外すぐなくなるので、多めに持っていくべきだと思います。現金を250€ほどとカードがあるといいと思います。カードはJALのものを持って行きましたが、大都市以外では使えるところが限られ、お金の引き出しもできないところが多く不便しました。三井住友のカードは広範囲で使えていたようなので、そちらをお勧めします。

大学でのテント生活は、夜がとても寒かったり虫が多かったりで大変でした。衛生面に敏感な方は避けるべきでしょう。しかし、他の場所に比べ周りに多くの人がいたので楽しかったです。洗濯はできないと思った方がいいです。コインランドリーはとても高く使う気になれなかったので、下着だけ手で洗っていました。

持参した方がいいものは常備薬と日本のお菓子です。あとビーチサンダルがあると大学の生活が何かと便利です。

## 4. 危機管理 (身を守るために気を付けていたことや危険を感じたことなど)



財布は常にウエストポーチに入れて持ち歩いていました。またダイヤル錠をテントの入り口に取り付けたり、テントを離れるときは中の荷物に錠をしたり蓋を閉めたりということも必ず行なっていました。荷物から手を離さず、荷物から離れる際は友達に荷物番を頼んだりしました。

#### 5. 留学を終えて感じる事&留学を考えている学生へのメッセージ

スピードの速い英語に慣れておくべきだと思います。あと自分の語彙力の不足に常に悩まされていたので、留学に行くまでに自分が留学先で撮る授業の用語はもちろん、日本での専門科目や自分の身の回りのことに関する日常語彙は身につけておくのと良いです。

萎縮して欧州人に話しかけるのをためらわないで下さい。理解できなかったり聞き取れなかった旨を伝えると、ちゃんとゆっくりわかりやすく説明してくれる人がほとんどです。

#### 6. 研修費用 (さしつかえなければおおよその金額を教えてください)

内訳	おおよその額	備考
航空運賃&ビザ申請料	226450	
海外旅行保険	13270	
授業料(教材費含)	72000	
滞在費(寮費など)	0	
食費	10000	
交通費	10000	
その他(小遣い、通信費など)	30000	
計	361720	

自由記述欄 \*現地のおすすめ情報や留学エピソードなどご自由にご利用ください。写真添付なども歓迎します。

↓↓↓



ユトレヒトは旧市街という感じでとても綺麗でした。キリスト教博物館には興味深い展示物が多かったです。

オランダには古い建物が多く、美しい街並みのところがたくさんありました。また運河も多く、土地が低くて干拓を繰り返してきたオランダの地形が如実に表れていました。

オフの日に行ったミュンスターは教会都市で円形の構造がはっきりと感じ取れました。こちらも美しい都市でした。マーケットが開催されていて、美味しいのものがいっぱいありました。

ビールの屋台も多かったです。地理好きの方と酒好きの方には特にオススメです。





アムステルダムでとった夕食です。大きなジャガイモに鮭のソースとチーズのかかったものです。ユニークで美味しかったです。オランダは緯度の高い北方の海に面しているので鮭や鯨が美味しいです。また酪農が盛んなのでチーズも美味しく、たくさんの種類ものがあります。野菜や果物も新鮮なものが多かったです。お菓子は全体的に甘かったです。